

熱電電源を小型化

デモキットを提供開始

メーターで構成され、簡単に円弱とユーザーが購入しやすに動作確認ができる。10万〜の価格を設定した。また、

オプションで無線通信モジュールや温度センサー、振動センサーなども用意しており、センシングデータをPCに送信して画面上で可視化することが可能だ。デモキットは300社以上もの引き合いが来ているといい、サンプルへの反響も含めてフィードバックして製品化を目指す。モーターの予兆管理など、排熱を利用した様々な用途への展開を図っていく。

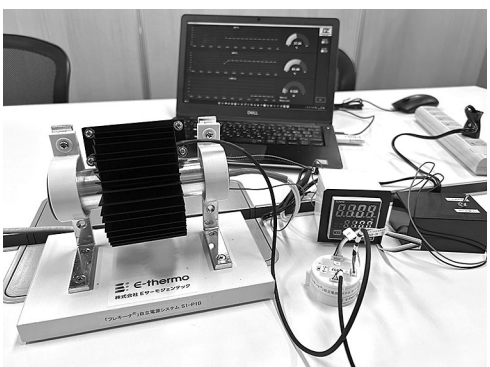
組み合わせさせて小型かつ簡単に排熱パイプに装着でき、高出力を実現可能なIoT自立電源を開発し、サンプル提供を行ってきた。

今回開発した「S1-P1B」と「S1-P2B」は、ダイヤモンドエレクトリックホールディングス(傘下のダイヤゼブラ電機)との共同開発で電源回路を従来の10分の1に小型化した。また、25℃の温度差で発電するのでより熱電発電を利用しやすくなった。出力はP1Bが10mW、P2Bが180mWで、出力数mW〜数十Wをカバー可能な4種の電源回路ユニットをラインアップする。

デモキットは、熱電発電に関心を持つユーザーが導入検討を加速できるように開発したものの、自立電源と電源回路、温度コントローラー、電圧

(株)エーモックエレクトロニクス(京都市南区)は、フレキシブル熱電発電モジュール「フレキナ」を搭載したIoT自立電源を小型化し、サンプル提供を開始した。また、センサーや無線通信と組み合わせることで簡単に機能検証できるデモキットも発売し、実用化の促進を図る。2022年度内〜3年度早々の量産化を目指す。

フレキナはフレキシブル性を持ち、高信頼性かつ低コストを実現可能な同社独自の熱電発電モジュール。21年には放熱フィンと



自立電源(左)とデモキット

